

DREC3500

取付説明書

090003-3205A700

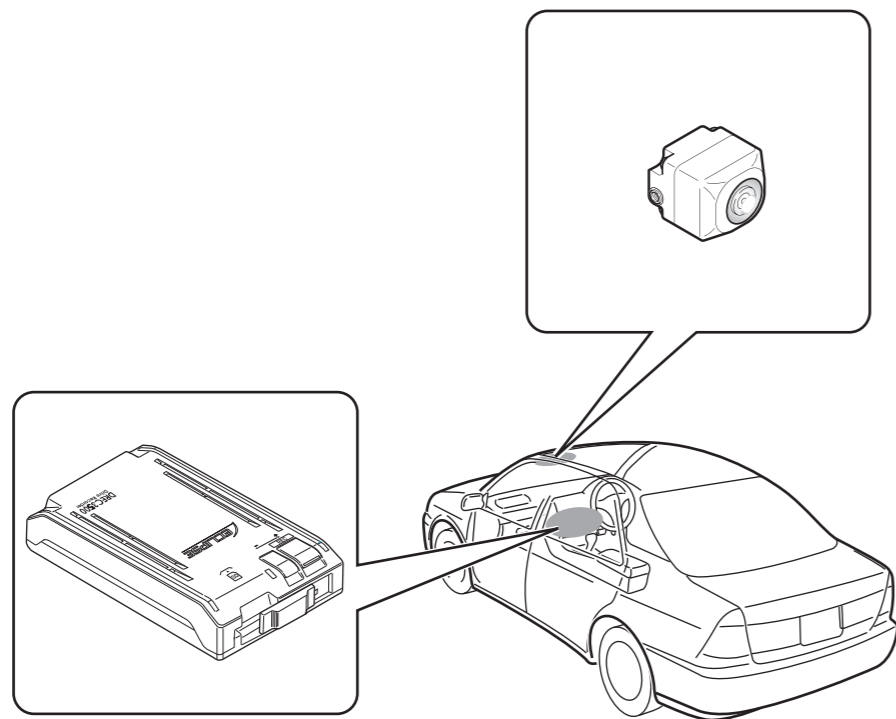
お客さまへのお願い

- 取り付けおよび接続を行う前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ、正しく作業を行ってください。
- 指定以外の取付方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。
- 本機の実取り付けには、専門技術と経験が必要です。お買い上げの販売店での取り付けをお勧めします。
- 安全運転のため、ご使用前に「取扱説明書」、「取付説明書」をよくお読みうえ、正しくお使いください。
- 「取扱説明書」、「取付説明書」をお読みにになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

—販売店様へ—

取り付け、接続作業が完了しましたら、この取付説明書をお客様へお渡しください。

取付概要図



構成部品

作業前に構成部品が揃っているか、汚れや傷がないか確認してください。

● 本体関係

① 本体 ×1	② カメラ ×1	③ 接続コード ×1
④ SDメモリーカード ×1	⑤ スピーカ ×1	⑥ ブラケット (本体用) ×1
⑦ ブラケット (カメラ用) ×1	⑧ 両面テープ ×1	⑨ クランプ金属製 (大) ×2
⑩ クランプ金属製 (小) ×1	⑪ クランプ樹脂製 ×5	⑫ バンドクランプ ×4
⑬ 座金付ねじ (M3×6) ×2	⑭ タッピングねじ (4×12) ×4	⑮ クリーナ ×1

● 調整治具関係 (包装箱に印刷)

⑯ カメラ角度確認治具 ×1	⑰ フロントガラス角度確認治具 ×1
-------------------	-----------------------

● 用意していただくもの

⑱ クリップ (市販品) ※ ×1

※クリップは、製品に付属していません。カメラ角度調整に必要ですので、市販のものを別途、購入してください。

● その他

その他の構成部品 (取扱説明書、取付説明書、保証書などの資料類)

作業の前に

- 取り付ける前に構成部品をご確認ください。
- 取り付けには、一般工具のほか、はさみやカッターナイフ、布きれが必要です。
- ねじやボルト、ナットの取り付けには、寸法の合う工具をお使いください。
- 別売の外部機器を接続する場合には、必ず指定品をお使いのうえ、各機器の取付説明書をよくお読みの上、正しく作業を行ってください。

作業の進め方

- 1) バッテリーの⊖端子を外す
- 2) 接続を確認する (☞システム接続例)
- 3) カメラを取り付ける (☞取り付けと配線)
- 4) 配線する
- 5) 本体を取り付ける
- 6) バッテリーの⊖端子を元に戻す
- 7) 作動確認をする (☞取り付け後の作動確認)

●安全に正しくお使いいただくために

お客様や他の人への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の表示をしています。その表示と内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

!：しなければならないことを表しています。

⊘：してはいけないことを表しています。

●本機取り付けのために必ず守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを下記の表示で記載しています。

📎アドバイス この表示は、本機の故障や破損を防ぐために守っていただきたいこと、知っておくと便利なこと、知っておいていただきたい内容を示しています。

⚠警告

⚠ 本機はDC12V/24V⊖アース車専用です。
12V/24V車以外では使用しないでください。

⊘ 視界を妨げる場所や、ステアリング、シフトレバー、ブレーキペダルなどの運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所などには絶対に取り付けしないでください。
交通事故や怪我の原因となります。

⚠ 車体に穴をあけて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。
火災の原因となります。

⊘ 車体のボルトやナットを使用して機器の取り付けやアースを取得する場合は、ステアリング、ブレーキ系統やタンクなどの保安部品のボルト、ナットは絶対に使用しないでください。
これらを使用しますと、制動不能や発火、事故の原因となります。

! 取り付け作業前には、必ずバッテリーのマイナス⊖端子をはずしてください。
プラス⊕とマイナス⊖経路のショートによる感電や怪我の原因となります。

! コード類は、運転操作の妨げとならないよう、テープ等でまとめてください。
ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

⊘ 本機を分解したり、改造しないでください。
事故、火災、感電の原因となります。

⊘ 電源コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にしないでください。
電源コードの電流容量がオーバーし、火災、感電の原因となります。

⊘ 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。
事故・火災・感電の原因となります。

! ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズを使用してください。
規定容量を超えるヒューズを使用すると、火災の原因となります。

! 万一、異物が入った、水がかかった、煙が出る、変な匂いがあるなどの異常が起きた場合は、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店に相談してください。
そのまま使用すると事故、火災、感電の原因となります。

⊘ エアバッグの動作を妨げる場所には、絶対に本機取り付けと配線をしないでください。
エアバッグ動作を妨げる場所に取り付け・配線すると交通事故の際、エアバッグシステムが正常に動作しないため、怪我の原因となります。

! ドリル等で穴あけ作業をする場合は、ゴーグル等の目を保護するものを使用してください。
破片などが目に入ったりして怪我や失明の原因となります。

! 接続したコードや使用しないコードの先端など、被覆がない部分は絶縁性テープ等で絶縁してください。
ショートにより火災、感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取扱をすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

⚠：注意をしなければならないことを表しています。

⚠警告

! カメラは、運転者の視界の妨げにならないよう、フロントガラス上部ルームミラーの裏側のガラスの範囲に設置してください。
自動車検査法人審査事務規定第5章5-47により設置場所が限定されています。

! スピーカは指定の場所に取り付けてください。
フロントガラス上に取り付けた場合、車検に適合しません。

⊘ 本機が衝撃を検知するかを確かめるため故意に危険な運転をすることなどは、絶対にしないでください。

⊘ 機器内部に水や異物を入れないでください。
発煙、発火、感電の原因となります。

⊘ 雷が鳴り出したら、本機、カメラ、スピーカ、シガーライタープラグに触れないでください。
落雷により、感電の危険性があります。

⊘ 本機を使用するために、禁止された場所に駐車しないでください。

⊘ カード挿入口に異物を入れないでください。
火災や感電の原因となります。

⚠注意

! 本機取り付け・配線では、専門技術と経験が必要です。安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
誤った配線をした場合、車に重大な支障をきたす場合があります。

! 必ず付属の部品を指定通り使用してください。
指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品を損傷したり、しっかりと固定できず外れたりして危険です。

! 本説明書で指定された通りに接続してください。
正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。

! コードが金属部に触れないように配線してください。
金属部に接触しコードが破損して火災、感電の原因となることがあります。

! コード類の配線は、高温部を避けて行ってください。
コード類が車体の高温部に接触すると被膜が溶けてショートし、火災、感電の原因となることがあります。

! 本機の取付場所変更時は安全のため必ずお買い上げの販売店へ依頼してください。
取り外し、取り付けには専門技術が必要です。

⊘ 本機を車載用として以外は使用しないでください。
感電や怪我の原因となることがあります。

⊘ イタズラその他の目的では、使用しないでください。
本機は、危険運転の際の状況を記録することが目的です。

! 本機を取り付ける際に外した、車両のボルト、ナット、ネジ等は、紛失しないように注意し、戻し忘れ、締め忘れがないようにしてください。

⚠注意

⊘ しっかりと固定できないところや振動の多いところなどへの取り付けは避けてください。
衝撃を正しく検知できず、誤って作動したり、衝撃があっても作動しないことがあります。

⊘ 本機に、強い力やショックを与える、落とす、上に重いものをのせることはしないでください。
火災、故障の恐れがあります。

! 取り付け後に、オフセット設定を必ず実施してください。
衝撃を正しく検知できず、誤って作動したり、衝撃があっても作動しないことがあります。
(詳細は🔗取り付け後の作動確認を参照してください)

! シガーライタープラグを抜くときは、プラグ部を持って抜いてください。
コードが破損し、火災、感電の原因となることがあります。

⊘ 濡れた手でシガーライタープラグの抜き差しをしないでください。
感電の原因となることがあります。

⊘ 雨が吹きこむところなど水のかかるところや、湿気、埃、油煙の多いところへ取り付けしないでください。
本機に水や結露(エアコンホース周囲など)、埃、油煙が混入しますと、発煙や発火、故障の原因となることがあります。

⊘ 直射日光やヒーターの熱風が直接当たるところなどへ取り付けしないでください。
本機が高温となり、発煙や発火、故障の原因となる可能性があります。

! 両面テープで取り付ける場合は、取り付け場所の汚れやワックスをきれいに拭き取ってください。
きれいに拭き取らないと、走行時の振動で機器が外れて運転の妨げとなり交通事故やけがの原因となることがあります。

! 車体のねじ部分、シートレール等の可動部にコード類をはさみ込まないように配線してください。
断線やショートにより、事故や感電、火災の原因となることがあります。

⊘ カード挿入口に手や指を入れないでください。
けがの原因となることがあります。

⊘ カメラ部を強くたたいたり、物をぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。
カメラやスピーカの故障や破損の原因になります。

⊘ カメラ部への直火やドライヤー、熱湯での急激な温度変化を与えないでください。
故障や破損の原因になります。

⊘ カメラ本体及びレンズ部分、ブラケット、カメラコードをアルコール、ベンジン、シンナー、ガソリン等揮発性の薬品類で拭かないでください。
変形や変質、破損の原因になります。

⊘ 磨き砂等が配合された洗剤で拭かないでください。
キズの原因になります。

! カメラレンズ部分が汚れている場合は、水を含ませた柔らかい布などで軽く拭いてください。
乾いた布で強くこするとキズの原因になります。

⊘ カメラコードにキズをつけないでください。
キズ部分からカメラ内部に湿気や水が吸い込まれ故障や火災、感電の原因になります。

⊘ 本機をコンソールボックスの蓋側など、開閉動作が行われる場所へ取り付けしないでください。
検知機能が正しく働かなくなります。

本機について (必ずお読みください)

●本機は衝撃を検知して映像を記録する装置ですが、すべての状況において映像を記録することを保証したものではありません。以下の場合などは、衝撃が検知できず映像が記録できないことがあります。

- ①低速で衝突、または、相手車両との相対速度が小さい状態で衝突した場合
 - ②自車両、相手車両の衝撃緩和箇所(例:バンパー、ドア、タイヤボックス等)に衝突した場合
※①②バンパー、ドア、タイヤボックス等で衝撃が緩和されるので、見た目より衝撃が発生しないことがあります。
エアバッグが開かないような低衝撃の事故は検知できない場合があります。
 - ③自車両に対して相手車両が軽い、または、相手が人や自転車等の場合
 - ④相手車両の側面をこすように衝突した場合
※③④相手車両が軽かったり(自動車対人、自動車対自転車等)、相手車両が回転すると、衝突時の衝撃が受け流され、自車両への反発の衝撃が小さくなります。
 - ⑤雪道や凍結路で急ブレーキをかけた場合
※雪道や凍結路では、タイヤと路面との摩擦が少なく、小さい衝撃でもスリップしますので、Gセンサでの検知が困難になります。また、ABSが作動していても、タイヤがロックしないように制御するだけなので、発生する衝撃は小さいままです。
 - ⑥衝撃が弱く、本機が検知するように設定されたセンサ感度に満たない場合
 - ⑦本機の本体が固定されていなかったり、取り付け後のオフセット設定が行われていないなど、本機の取付状態に問題がある場合
 - ⑧大きな事故や水没などで本機が損傷を受けた場合
 - ⑨大きな事故の場合などでバッテリーと本機間の電源コードが断線した場合、または、バッテリーが損傷を受けた場合
- 衝撃を感じても映像が記録されなかった場合や記録された映像データが破損していた場合による損害、本機の故障や本機を使用することによって生じた損害については弊社は一切責任を負いません。
- 本機は、事故の検証に役立つことも目的の一つとした製品ですが、完全な証拠としての効力を保証するものではありません。
- 本機で記録した映像は、その使用目的や使用方法によっては、被写体のプライバシーなどの権利を侵害する場合がありますのでご注意ください。また、本機をイタズラなどの目的では使用しないでください。これらの場合については弊社は一切責任を負いません。
- 本機は映像を記録する装置ですが、必ずしも信号が確認できることを保証した装置ではございません。逆光など、環境によって信号が確認できないときは、前後の映像や周辺の車両が確認できない件については、弊社は一切責任を負いません。
- 長期間にわたり電源が供給されない状態が続くと、日時がずれる場合があります。日時が大幅にずれている場合や日時異常になった場合は、日時を修正してください。
- 本機で記録した映像を見るために、下記のスペックを満足するパソコンが必要です。また、カードリーダーは含まれていませんので、ご使用のパソコンに接続可能なカードリーダーを別途ご購入願います。

パソコンの必要条件	
OS	Windows XP (SP3以降) Windows Vista (SP2以降) Windows 7 いずれも日本語版 32ビット版のみ対応 ※1
CPU	Pentium III 800MHz 以上 ※2
メモリ	128MB 以上 ※2
ディスプレイ	1024 × 768 ピクセル以上、 High Color (16ビット) 以上
サウンド	Windows で使用可能な PCM サウンド再生機能
その他	Internet Explorer 4.0 以降 USB2.0 または PCMCIA スロット経由で SD メモリーカードにアクセスできること

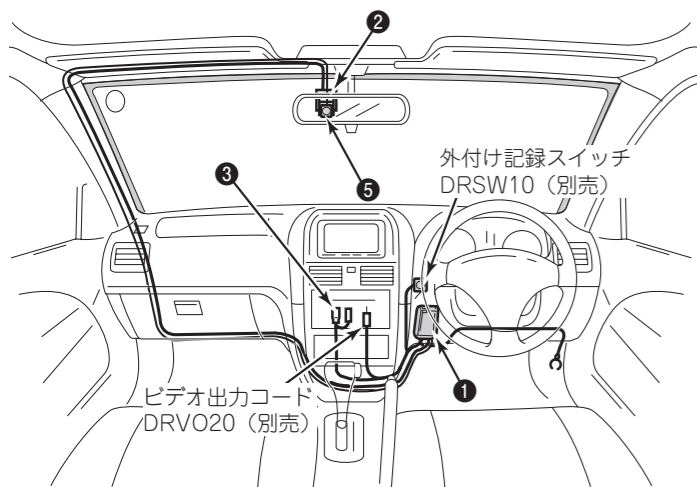
※1 上記のOS以外のバージョンのOS上で起動させた場合、アプリケーションの動作は保証されません。

※2 Windows XPの場合です。Windows VistaおよびWindows 7については、Microsoft社の推奨システム要件が必要です。

●Windows XP、Windows Vista、Windows 7は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
その他、本文中に掲載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。
●ご使用のパソコンによっては、再生時に映像が乱れたり音声途切れたりする場合があります。その際は、ビューアースoftを終了させ、再度ビューアースoftを起動して映像を再生してください。

取り付けと配線

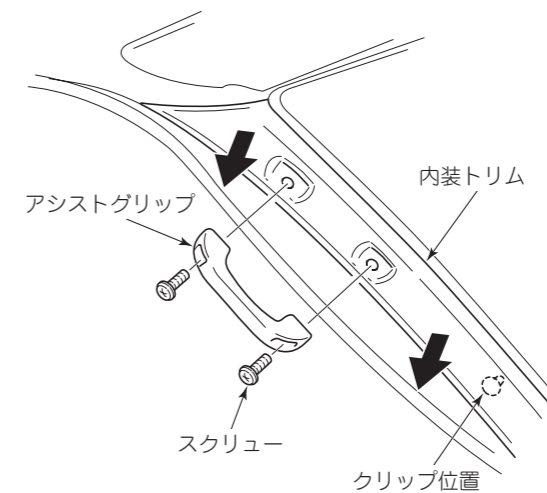
取付配線概要図



1 車両内装トリムを取り外す

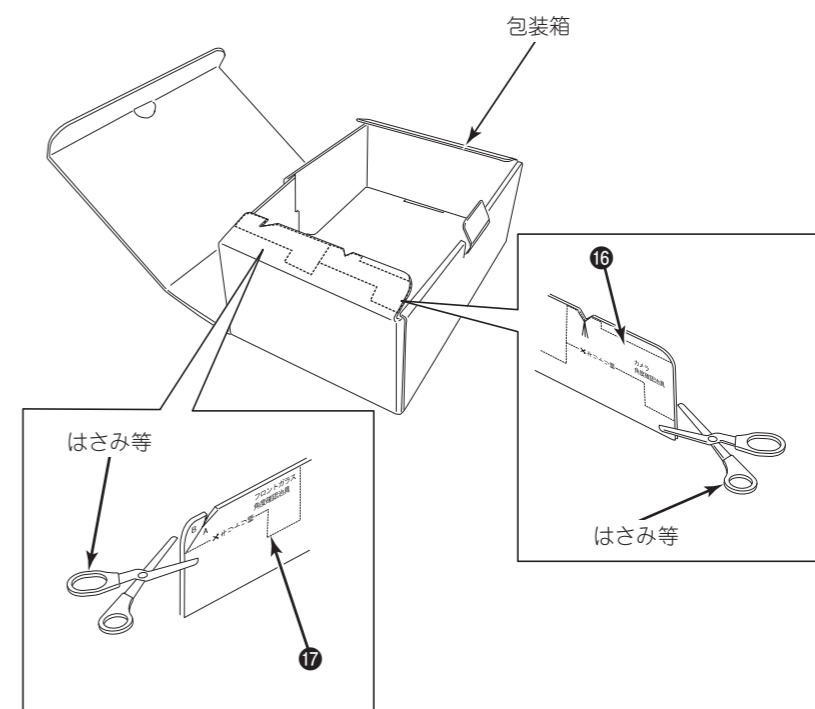
- 樹脂製の内装トリムは、クリップや、ネジ等で固定されており、無理に外すと破損したり変形する事があります。
- 取り外し作業が困難な場合は、車両のお買い上げ店や最寄りのディーラーにお問い合わせください。
(作業工賃はお客様にご負担いただく場合があります。)

—内装トリム取り外し(例)—



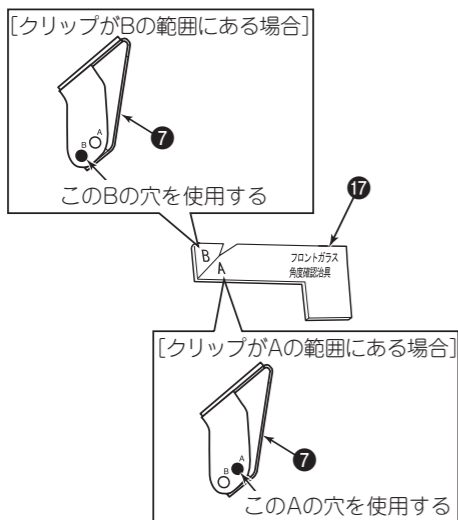
2 カメラ角度確認治具およびフロントガラス角度確認治具を準備する

- ① 包装箱に印刷されているカメラ角度調整治具およびフロントガラス角度確認治具をはさみなどで切り取る。



アドバイス

- フロントガラス角度確認治具は、包装箱に印刷してあります。はさみ等で切り取って使用してください。
- フロントガラスの傾斜は、必ず車室内から測ってください。
- フロントガラス角度確認治具をフロントガラスにあてた際、引っ掛けたクリップがAの範囲を指した場合、ブラケット(カメラ用)の取付穴はAを使用して取り付けてください。
- フロントガラス角度確認治具をフロントガラスにあてた際、引っ掛けたクリップがBの範囲を指した場合、ブラケット(カメラ用)の取付穴はBを使用して取り付けてください。

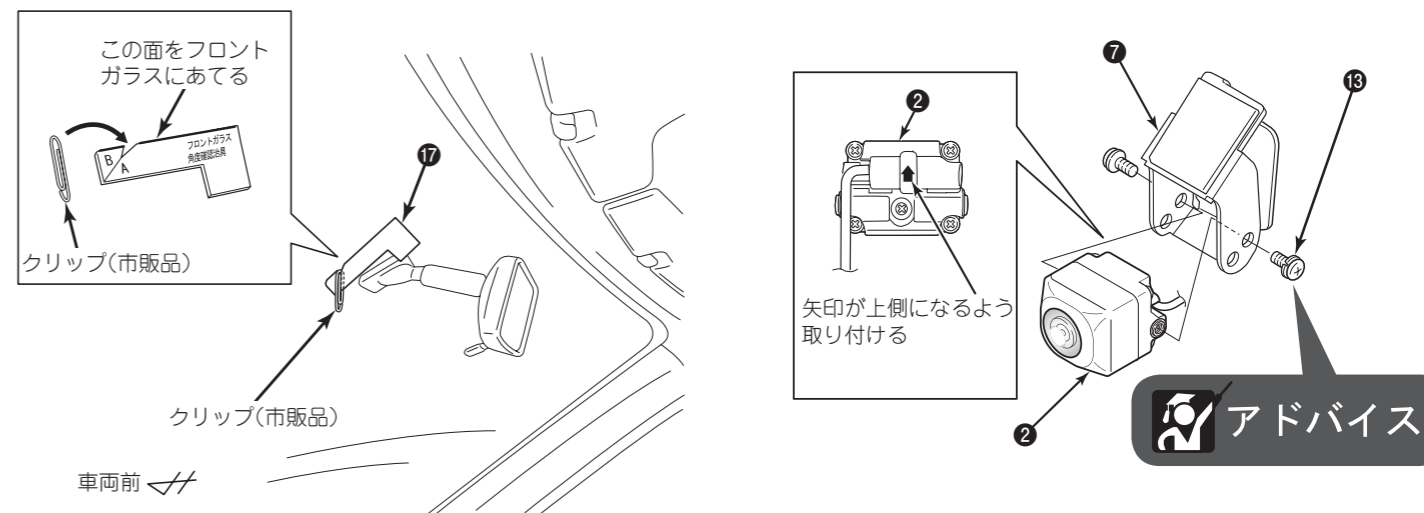


3 フロントガラスの角度を確認する

- ① フロントガラス角度調整治具の切り欠きにクリップ(市販品)を引っ掛ける。
- ② フロントガラスにフロントガラス角度調整治具をあて、クリップ(市販品)がA、Bどちらの範囲にあるか確認する。

4 カメラをブラケットに組み付ける

- カメラを車両に取り付け後にカメラの角度調整を行いますので、カメラをブラケットに取り付ける際、ねじは本締めしないでください。



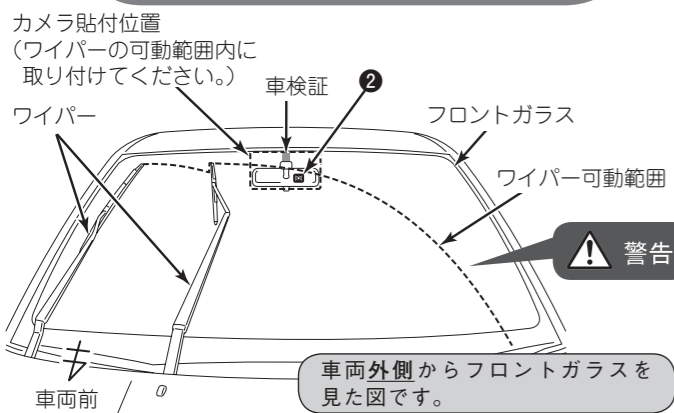
アドバイス

矢印が上側になるよう取り付ける

アドバイス

- 湿気が多い時は、屋外での取り付けはしないでください。(粘着力が弱くなり、走行中にはがれる危険性があります。)
- 付属のクリーナーで貼り付け面の汚れ(油分、水滴)をきれいに拭き取ってください。特に水滴は両面テープの性能を劣化させますので注意してください。(粘着力が弱くなり走行中にはがれる危険性があります。)
- 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。カメラ本体やレンズ部分には、ドライヤー等を使用しないでください。
- 取り付け後、引っ張る等、無理な力を加えないで自然放置してください。
- ブラケットを十分な力で押えつけて両面テープの貼りムラが無いか確認してください。貼りムラがあるとその部分から水分等が侵入して走行中にはがれる危険性があります。必ずガラスの裏から気泡が無いか確認してください。
- 一度取り付けした物は両面テープの粘着力が弱くなりますので再貼り付けしないように注意して取り付けしてください。
- 取り付け後ガラス部を拭く場合は両面テープに水分がかからないようにしてください。粘着面の貼りムラから水分が侵入して粘着力が弱くなり走行中にはがれる危険性があります。

カメラ、スピーカ取付概要図

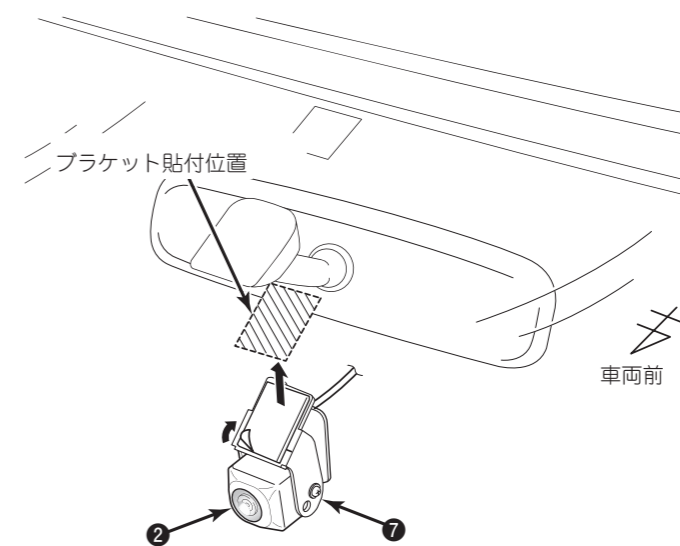


警告

- カメラはフロントガラス内側のルームミラー付近に取り付けてください。その他の場所への取り付けは、行わないでください。(詳細は自動車検査法人審査事務規定第5章5-47を参照願います。)
- カメラは、車検証と重ならないように取付位置を決めてください。
- ワイパーの可動範囲内にカメラを取り付けてください。ワイパーの可動範囲外にカメラを取り付けると雨天の際、鮮明な映像が撮影できない可能性があります。
- カメラの撮影範囲には、黒セララインまたは、黒セラドットパターンなどの着色範囲を避けて取り付けてください。
- スピーカはカメラブラケットに取り付けてください。フロントガラス上に取り付けた場合、車検に適合しません。

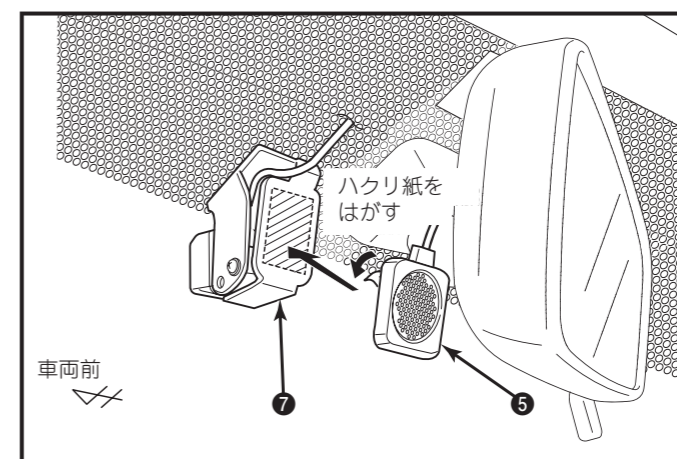
5 ガラス面にブラケットを貼り付ける

- ① ブラケット貼付位置を決め、テープ等でマーキングする。
- ② ブラケット貼付位置の汚れ、水分、油分等を付属のクリーナー(布)できれいにふき取る。
 - フロントガラスに付着している水分は、十分に乾かせてください。
- ③ ブラケットの両面テープのハクリ紙をはがし、ガラス面の平らな面へ取り付ける。
 - 貼り付けた後は、確実に密着するようブラケットを十分押し付けてください。
 - 気温が低い(20℃以下)と両面テープの粘着力が弱まります。ドライヤー等を使用し、粘着面を暖めてから貼り付けてください。
 - カメラ本体やレンズ部分にドライヤーの熱風を吹きかけたり、熱を加えたりしないでください。
 - ブラケット貼り付け後、車両外側から見て貼り付けテープの部分に気泡がないことを確認してください。



6 スピーカを貼り付ける

- ① スピーカの両面テープのハクリ紙をはがす。
- ② ブラケット(ガラス用)の平らな面に取り付ける。



7 カメラ角度を調整する

- カメラ角度確認治具は、包装箱に印刷してあります。はさみ等で切り取って使用してください。

- ① カメラ角度確認治具の切り欠きにクリップ(市販品)を引っ掛ける。
- ② カメラ底面にカメラ角度確認治具をあてる。
- ③ 座金付ねじを緩め、カメラが水平になるようにカメラの角度を調整する。
- ④ カメラの角度調整後、座金付ねじをしっかりと締め付けカメラを固定する。
 - カメラの角度調整の際、コードが突っ張らないように注意してください。
 - 座金付ねじは時々点検し、緩みがある場合は増し締めをしてください。

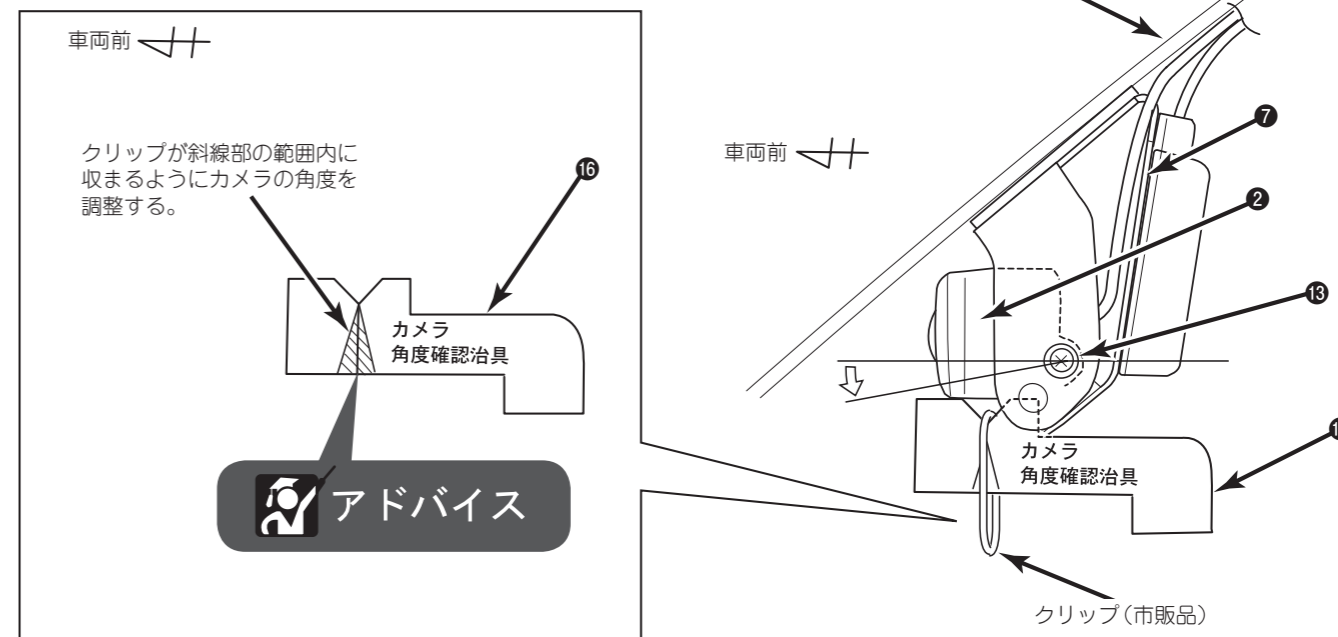


アドバイス

アドバイス

- カメラ角度確認治具をカメラにあてた際、引っ掛けたクリップがカメラ角度確認治具の斜線部の範囲内に収まるようにカメラの角度を調整してください。

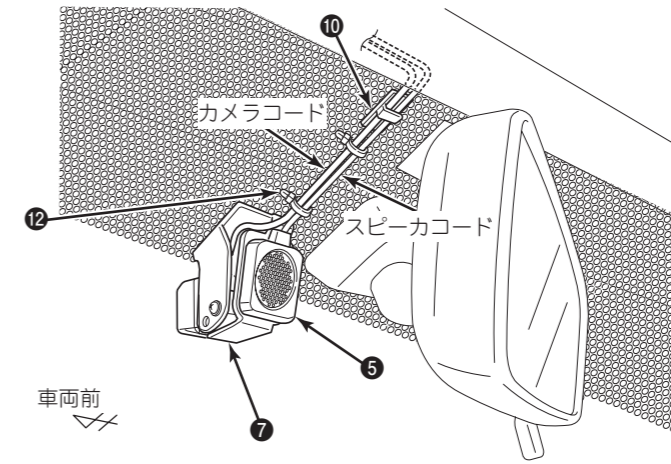
—角度調整—



8 カメラコードおよびスピーカコードを配線する

① カメラコードおよびスピーカコードをクランプ金属製(小)とバンドクランプで固定しながら配線する。

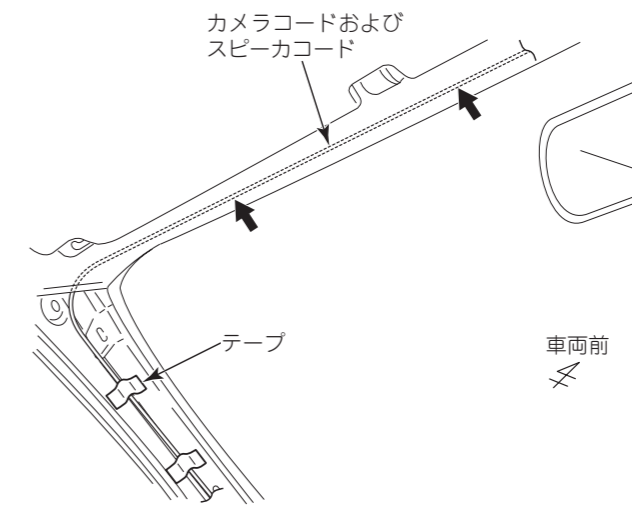
- プラケット貼付部に負担がかからないように配線してください。
- クランプ金属製(小)は、必ず黒セララインまたは黒セラドットパターンの中に貼り付けてください。
- 黒セララインまたは黒セラドットパターンがない場合は、クランプ金属製(小)は使用しないでください。



9 カメラコードおよびスピーカコードを配線する

① カメラコードおよびスピーカコードをテープなどで固定しながら、本体の取付位置まで配線する。

- カメラコードおよびスピーカコードは、ルーフヘッドライニングの中に配線し、はみ出さないようにしてください。
- ルーフヘッドライニングに隙間がありカメラコードおよびスピーカコードがはみ出してくる場合は、カメラコードおよびスピーカコードにテープ等を巻き付けてルーフヘッドライニング内に押し込んでください。
- ルーフヘッドライニングに無理な力を加えてルーフヘッドライニングが折り曲がらないよう注意してください。
- カメラコードおよびスピーカコードは、車両クリップ穴やネジ穴等をふさがないように配線してください。
- 車両エッジ部分を選けて配線してください。干渉する場合は、エッジ部分にテープを貼り付けてください。
- 車両内装トリムを復元した際、コードにかみ込みが無い事を確認してください。



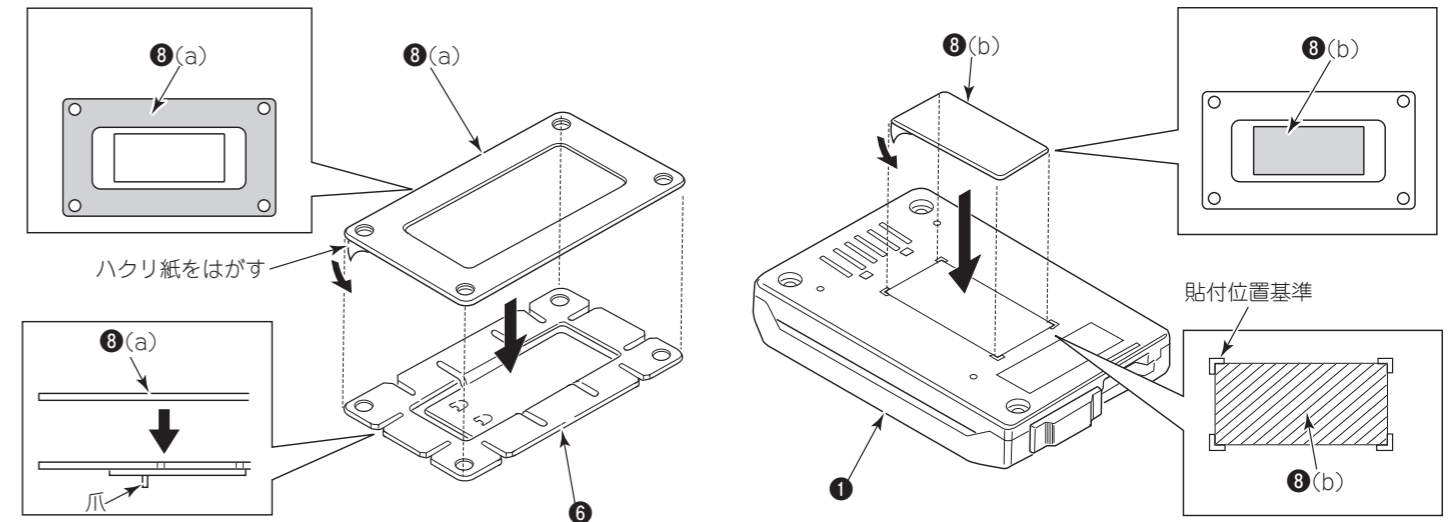
10 本体に両面テープを貼り付ける

① 本体用ブラケットに両面テープを貼り付ける。

- 両面テープは、ブラケットの爪が出ていない面に貼り付けてください。

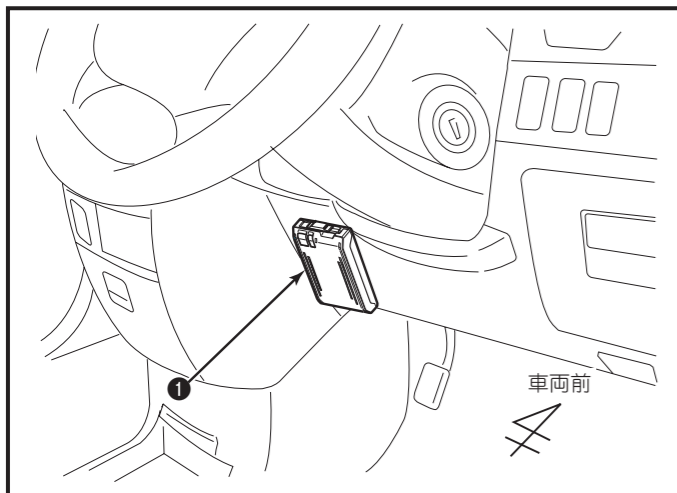
② 本体裏面に両面テープを貼り付ける。

- 両面テープは、貼付位置基準に合わせて貼り付けてください。

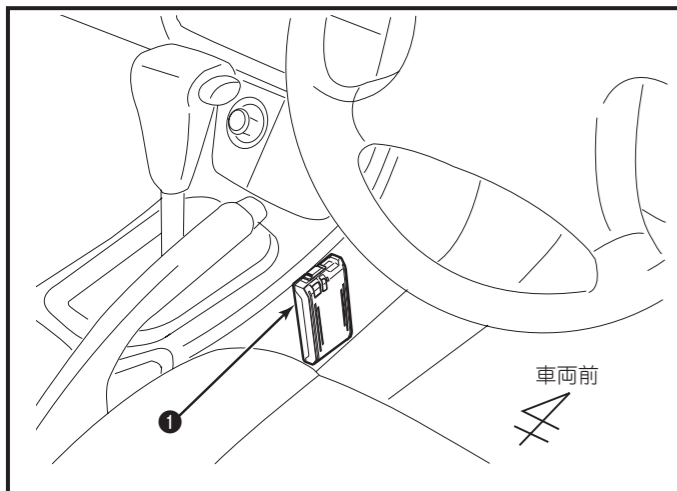


本体の取付概要図

取付例 1



取付例 2



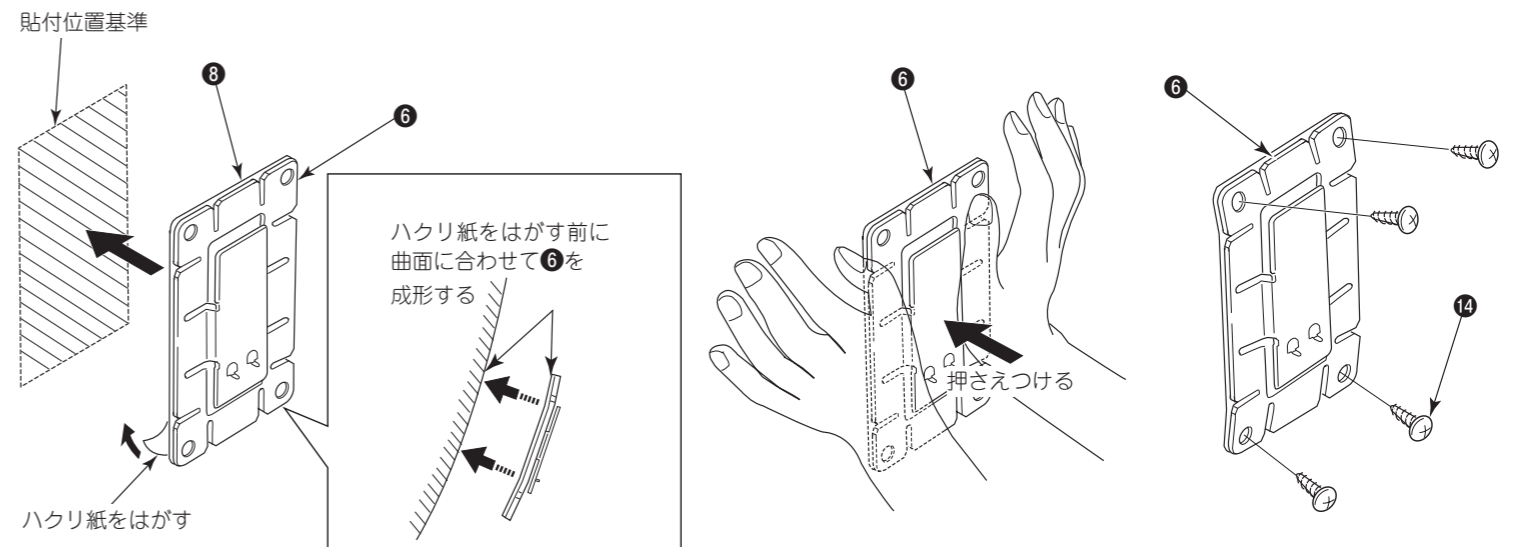
・本体の取付角度制限はありません。

アドバイス

- しっかりと固定できないところや振動の多いところなどへの取り付けや構成部品以外の部材(マジックテープ等)を使用しての取り付けはしないでください。衝撃を正しく検知できず、誤って作動したり衝撃があっても作動しないことがあります。
- 音声を録音するためのマイク(集音部)は本体に内蔵されています。本体が覆われるようなところへ取り付けると、音量が小さくなったり、正常に音声を録音できないことがあります。
- 本体はSDメモリーカードの操作がしやすく、本体LEDランプの点灯状態などが確認しやすい場所に取り付けてください。
- 本機をコンソールボックスの蓋側など、開閉動作が行われる場所への取り付けは、正しく検知機能が働かないためおやめください。

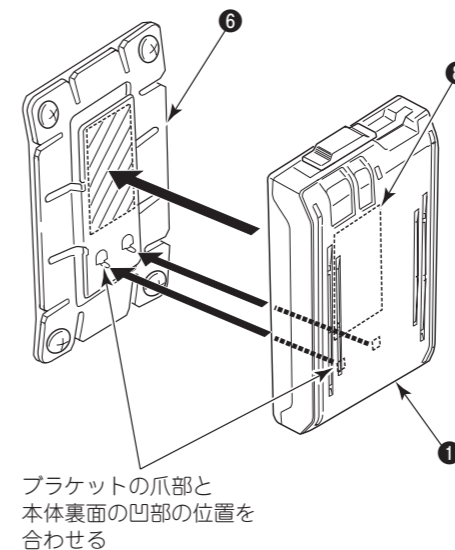
11 ブラケットを取り付ける

- ① 車両の貼付位置の形状に合わせてブラケットを成形する。
- ② ブラケットを車両の貼付位置に貼り付ける。
 - ブラケットの両面テープのハクリ紙は、成形後にはがしてください。
- ③ ブラケットを十分接着させるため貼り付け面にブラケットを押し付ける。
- ④ ブラケットをタッピングねじで固定する。



12 本体をブラケットに取り付ける

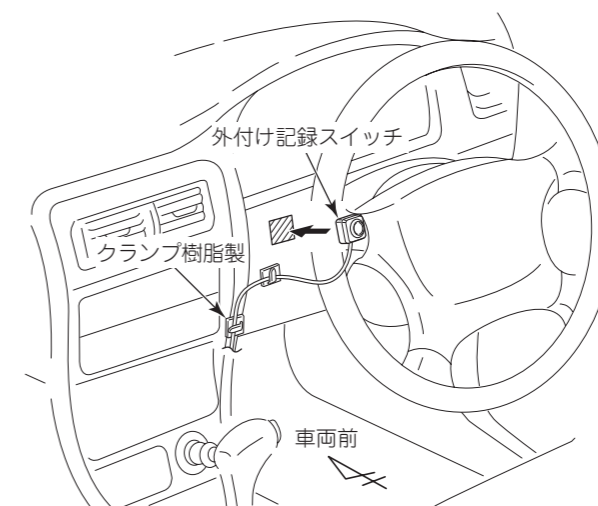
- ① 本体の両面テープのハクリ紙をはがし本体をブラケットに貼り付ける。
 - 本体用ブラケットの爪部分と本体裏面の凹部分を位置合わせて貼り付けてください。



13 外付け記録スイッチの取り付け (別売DRSW10)

外付け記録スイッチは本体内蔵の記録スイッチと同様の操作が可能です。

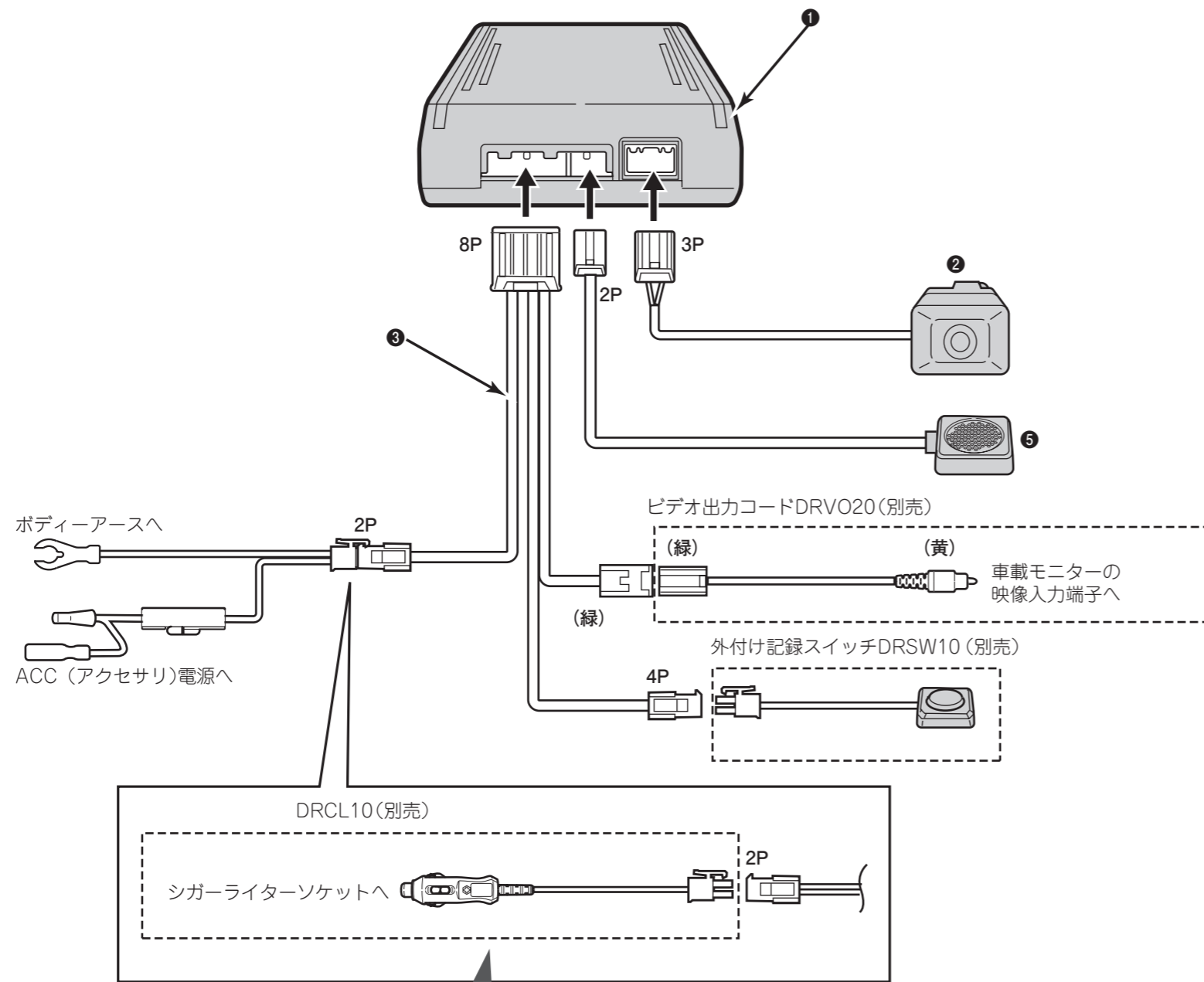
- ① 外付け記録スイッチをクラスターパネルの右横等、操作性の良い位置に取り付ける。
 - 運転操作の妨げになるような場所には取り付けないでください。
 - 直射日光が当たるような場所には取り付けないでください。
- ② 外付け記録スイッチコードをクランプやテープで固定しながら本体取付位置まで配線する。
 - コードを配線する際は、運転操作の妨げにならないように配線してください。



システム接続例

接続する機器の取付説明書を確認して取り付けおよび配線を行ってからメインユニットに接続してください。

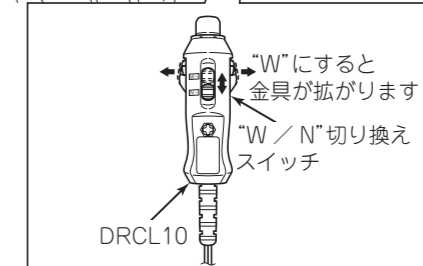
●車両電源ハーネスとの接続には別売の車種別変換コードが必要です。詳しくは、お買い上げの販売店や自動車ディーラーにお問い合わせください。



アドバイス

アドバイス

- 本機は、別売のDRCL10 (ドライブレコーダー用シガーライター電源コード)を使用してシガーライターソケットからも簡易に電源をとれるようになっておりますが、車両によって常時、電源供給されていたり、接触不良により電源供給が、寸断される場合があります。この場合は、付属の接続コードを使用し車両のアクセサリ電源ラインから電源を取得することをお勧めいたします。
- シガーライターソケットから電源を取得する場合、車両のシガーライターソケットの口径に合わせて、DRCL10先端の金具の幅を調整してください。接触が不十分な場合、本機が正常に作動しません。



●取り付け後の作動確認

必ず、実施してください！

ドライブレコーダー本体の取付状態を認識させるためにオフセット設定を行います。
ドライブレコーダーの本体が固定されていなかったり、取り付け後のオフセット設定が行われていないなど、本機の取付状態に問題がある場合、衝撃を正しく検知できず、誤って作動したり、衝撃があっても検知できず映像が記録できないことがあります。

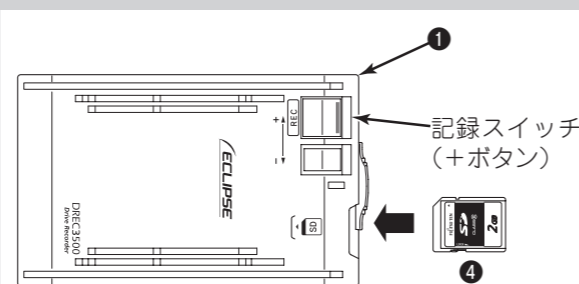
必ず、正しく動作していることを確認してください。取り付け後のオフセット設定および確認は、車両を水平な場所に停車させて、実施してください。

1 本機の電源が切れている状態で、本体にSDメモリーカードを挿入してカードロック扉を閉めてください。



注意

- SDメモリーカードの抜き挿しは、本機の電源が切れていること(全てのLEDが消灯)を確認して行ってください。本機が動作中にSDメモリーカードの抜き挿しを行うと、SDメモリーカードが破損する恐れがあります。
- カードロック扉を右にスライドさせ、付属のSDメモリーカードをカード挿入口から挿入します。
- SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチは「LOCK」解除の状態です。
- SDメモリーカードは、ロゴがある面を上にして挿入してください。
- SDメモリーカードを本機に挿入する場合、向きに注意して挿入してください。SDメモリーカードを挿入したあとは、カードロック扉をカチッと音がする所まで左にスライドさせてください。



2 オフセット設定を行います。 記録スイッチ(+ボタン)を押しながら、車両のエンジンキーをオンにしてください。

「オフセット設定しました」とガイダンスが流れたらオフセット設定完了です。

記録スイッチ(+ボタン)から手を離してください。

(車両のエンジンキーをオンにしてから、約6秒後にガイダンスが流れます。)ガイダンスが確認できない場合、再度オフセット設定を実施してください。

3 本体が起動します。青LEDが点灯した後、「起動しました」とガイダンスが流れると、赤LEDが点灯し起動完了です(約9秒程度かかります)。

4 起動完了後、録音状態を確認するため、ラジオやオーディオの音を鳴らした状態にします。

ドライブレコーダーのビデオメモリー初期状態は「自動モード」のため、起動完了後より、映像と音声の記録をし続けています。



注意

- SDメモリーカードを抜く場合は、必ずエンジンキーをオフにしてから行ってください。
- SDメモリーカードへの記録中(赤LEDが点灯中)は、絶対にSDメモリーカードを抜かないでください。SDメモリーカードが破損するだけでなく、本機が故障する恐れがあります。

アドバイス

- 後ほどパソコンで撮影日時を確認するため、本体が起動完了した時の時間を控えておいてください。

5 起動完了してから20秒以上経過後に車両のエンジンキーをオフにします。 全てのLEDが消灯すると、電源が切れた状態です。

6 カードロック扉を右にスライドさせ、SDメモリーカードの中央付近を軽く押し込み手を離してください。SDメモリーカードが少し飛び出します。SDメモリーカードを取り出してください。



注意

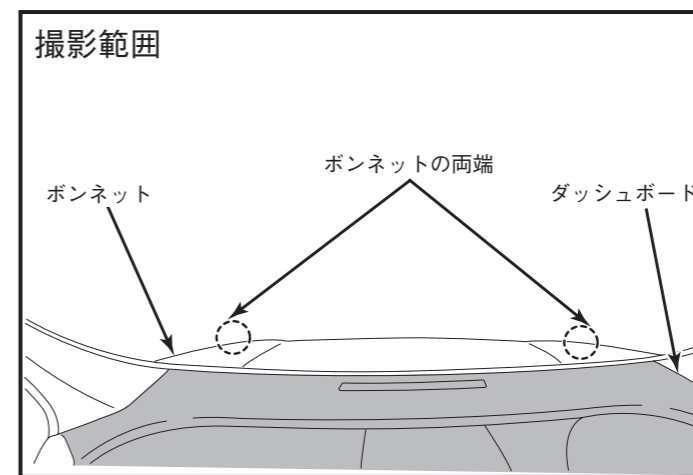
- SDメモリーカードの抜き挿しは、本機の電源が切れていること(全てのLEDが消灯)を確認して行ってください。本機が動作中にSDメモリーカードの抜き挿しを行うと、SDメモリーカードが破損する恐れがあります。
- SDメモリーカードを挿入しない場合、本機は動作しません。SDメモリーカードを取り出した場合は、入れ忘れにご注意ください。SDメモリーカードが無い場合は、案内が「ピーッピーッ・・・」と鳴りつづけます。記録スイッチを押すと案内は止まりますが、本機は動作していませんのでご注意ください。

7 パソコンでビューアソフトを起動し、撮影した映像を確認します。

確認のポイント

■ 撮影したい方向にカメラが向いているか。

上向きになりすぎている(空ばかり)、下向きになりすぎている(ボンネットやダッシュボードばかり)ときは、カメラの取付角度を修正してください。



■ 音声録音できているか。

密閉された場所への取り付けで音声録音されていない場合や、音声が聞こえにくい場合は本体取り付け位置の変更をしてください。

■ 日時が合っているか。

日時が合っていない場合は取扱説明書の手順に従って日時を合わせてください。

■ スピーカから音が聞こえるか。

スピーカコードが本体にしっかり接続されているか確認してください。